

# Eureka VI

六年制通信 No. 13 平成30年7月20日(金)号

## 宿題、勉強、その先へ

「宿題のある幸せ」という言葉があって、実はこれは宿題でも勉強でも仕事でも何でもいいのですけれど、何か目の前にしなければならないことがあるというのは、幸せなことだという意味です。

ラッセルの『幸福論』(*The Conquest of Happiness*)は、私らの世代では必ず読まれた、あるいは入試などで何度も出題された英文なのですが、その第14章「仕事」が特に有名なので、岩波文庫の翻訳から紹介してみましよう。

たいていの人がしなければならない仕事は、おおむね、それ自体おもしろいものではない。しかし、そういう仕事でさえ大きな利点がある。まず第一に、仕事は、何をすべきか決定することなしに一日のかなり多くの時間を満たしてくれる。たいていの人は、自分の時間を勝手に好きなようにつぶしてもよいと言われると、やりがいのある楽しいことを思いつくのに困ってしまうものだ。そして、どんなことに決定したとしても、何か別のことのほうがもっと楽しかったのじゃないか、という思いに悩まされる。

『ラッセル幸福論』安藤貞雄訳 岩波文庫 p.230

つまり、何をしようかと考えるより、これをしなさいと言われる方が楽だということでしょう。宿題も補習もクラブも何もなく夏休みを過ごすとなると、確かに時間を有意義に活用する自信はないかもしれませんね。

しかし、宿題などはさっさと済ませてしまって、あるいは前にも言いましたが受験勉強もさっさと済ませてしまって、そういう勉強から生まれた君だけの疑問に取り組んでほしいと、私は思います。学校の勉強は守備範囲が広すぎるので、多くの場合「広く浅く」という設定がなされています。「倫理」の教科書がいい例で、あれに載っている哲学書の、たとえ一冊でも授業中に読むことはないでしょう。キリスト教を習っても聖書を読まないようなものです。そんな時間は受験生にはない、ということになっていますから。だから、受験勉強なんか一刻も早く済ませてほしいのです。授業中に疑問に思うことはいっぱいあるはずなのに、それを深く勉強する機会がないのですね。

私は松尾芭蕉の「古池や 蛙飛び込む 水の音」を習った時、いくつかの疑問を持ちました。この俳句から日本人は、一匹のカエルが飛び込む映像を思い浮かべるはず。カエルは絶対に一匹のはず。音は「どぼん」ではなく「ぼちゃん」のはず。これはどこにも言語として表記されていないけれど、私の描いた映像は恐らく日本人に共通のはず。では、英訳はどうなっているのか。まずはそういう疑問を持ちました。次に「古

池や」はどうして「古池に」ではいけないのかという疑問でしたが、当時はここから先へ自分で勉強することはしませんでした。高校の頃の話です。

同じく高校の頃、世界史の時間に日露戦争を習った時、同級生の一人が乃木將軍を好きになってしまったのですね。教科書に乃木希典が出てくるのは一瞬ですが、彼はその後も自分でいろいろ読んでいたようで、ある時私に『中朝事実』という本を知っているかと聞いてきました。もちろん知りませんでした。この本は江戸時代の軍学者山鹿素行の書いた本です。忠臣蔵で有名な赤穂藩で書いたのですが、大石内蔵助にも影響を与えたと言われています。それで、乃木さんが殉死の直前にのちの昭和天皇にこの本を贈った、ということをごどこかで読んだらしい友人が、自分も読みたいというのですね。もちろん先生方にも聞いてみたらしいのですが、和綴じ本ですからね、持ってらっしゃらないですよ。彼がその後、この本を読んだかどうか知りませんが、私は、すでにほとんどの受験勉強を猛スピードで終えていた友人の、好奇心というか探究心に大いに感心しました。ちなみに、『中朝事実』は吉田松陰がどうしても欲しがり、手に入れた時は狂喜したという記録が残っています。また、乃木さんは松陰に教えを受けに松下村塾を訪れています。

学校で習うことはほんのサワリに過ぎません。興味を持ったことがその場で解決されないことが多いでしょう。でも、忘れてしまってはいけません。そして、夏休みのような、大きく時間の取れるときに深く勉強してみてください。

#### 夏休みの読書案内

・吉田兼好 『徒然草』 (旺文社文庫他)

昔々、私が高校生だった頃、いろんな高校の夏休みの宿題を調べた先生がいて、灘高校の古典の欄に「徒然草」と書いてあった、というかそれしか書いてなかったことをしきりに感心していらしかったのを覚えています。それも高1の宿題に「徒然草」を選ぶとはさすがだというわけですね。我々も恐らくそれに似た激しい宿題を出されたのでしょうが、あまり覚えていません。一つだけ、英語の本を宿題にされたことだけ覚えています。100ページ以上ある、確かロビンソン・クルーソーだったように思います。高1の夏ですよ。分詞構文も習っていない生徒に無茶な話ですが、数学はどうせもっと無茶苦茶な宿題が出たに違いないので、まあ当時はそんなものだという事です。

夏休みには、ゆっくり本を読んで下さいね。私も「徒然草」と「枕草子」を通読します。これを義務としてあとは適当に読んでいくつもりです。君たちは、そう、誰か一人の作家でいいので、好きな人を見つけて、その人の全作品を読んでほしいと思います。そこからきっと読書は広がっていきますからね。

夜、静かな数時間を持つことが今の君たちにはとても大切だと私は信じています。前の通信で書きましたが「見ぬ世の人を友とする」読書には、一人の時間が、それも静かな時間が必要です。本を通して多くの、会うことのない友ができますように。

BGMは徳永英明の レイニーブルー でした…。